

開 議

○小関秀一委員長 ただいまから決算特別委員会を開きます。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

平成28年度長井市各会計決算に関する総括質疑

○小関秀一委員長 それでは、昨日に引き続き決算総括質疑を続行いたします。

五十嵐智洋委員の総括質疑

○小関秀一委員長 次に、順位4番、議席番号12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 9月4日の本会議、29日のミサイル発射の件で緊急質問を行おうと思いましたが、事情がありまして、できなくなりました。そして、一般質問に追加ということになりましたので、そのときはもう通告済んでいて、追加という形になりましたので、時間が足りなくて、きょう1番目の質問はちょっと市民文化会館の件で行ったものと重複するかもしれませんが、ご寛容に願いたいと存じます。

長井商工会議所タスビル取得資金利子助成金について伺います。

1番から3番までは産業参事に伺います。

ホテルを、ハイマンタスホテルですか、当時ね、そこを商工会議所が取得した総額が幾らで、その内訳、これ幾らだったか、長井市の補助金等もあったと思いますが、自己資金と、あと県の制度資金、それについてお答えください。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 お答えします。

平成13年度当時になりますが、商工会議所では、総額8億円の資金調達を行っております。その内訳は、山形県の制度資金が6億円、補助金が1億円、これは山形県が5,000万円、市が5,000万円です。それから、市中銀行からの借入れが1億円ということで、合計8億円というふうになっております。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 制度資金のその6億円ですけども、当初の返済計画についてお尋ねします。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 県の制度資金ですが、地域経済活性化資金という資金でありまして、年利1%、償還期間は15年以内、据置期間1年以内という資金であります。

それで、この借り入れしたときの当初の条件でございますが、償還期間が平成13年5月から平成28年3月までの14年10カ月、うち据え置き1年ということでありました。返済の条件としましては、平成14年9月から平成28年3月まで、年2回で、28回で返すと、そういった条件で償還、この資金を借りたということでございます。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 そうすると、28回で6億円を返すということは、元金は幾らになるんですか。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 1回当たり償還額がおおよそ2,142万円というふうな数字になっております。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 そうすると、1年間だと4,284万円ということですか。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 はい、そのような数字です。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 それで、年間元金が4,284万円、利息もかかるわけですから、当初は補助金はなかったわけですから利息も払わなくてはいけなかったということで、例えば5,000万円としますと、元利、単純にわかりやすく5,000万円としますと、1年間5,000万円ですから、1日13万円何がしを均等割しますと、返さなくちゃいけないんだと、私、当時申し上げたんです。

そうすると、9時に例えばシャッターをあけて、夜中の10時まで13時間、1時間1万円ずつもうけた利益の中から返さなくちゃいけないということで、できますかというふうにお尋ねしたんです。当時、そのときは不可能とは言いません、答弁なかったんですけども、非常に厳しい、そもそも最初からその返済計画だったんですよね。全部利益とは言いませんけども、減価償却を例えば年間5,000万円以上して、それですら資金がもうやっと足りるという状況ですからね、ですから、そもそも難しい、最初から大変な計画だった。で、そこに5,000万円の長井市の補助金が入っているということで、私、反対したんです。恐らく返せなくなりますよと。そして、将来にツケが長井市へ回ってきますよというふうに13年ですか、ですから、16年前になりますけど、案の定、何かそうなりつつあるんですよ。

それで、それが結局、28年3月、もう終わってなくちゃいけなかったものが、今回のその資料によりますと、28年度の決算では174万6,022円のこの利息に対して補助金を長井市から出して、現在まだ29年6月30日で、先月末でお返し

して、1億5,220万7,500円残っているんですよ。ですから、本当もうなくなって、完済しているべき年にまだ1億5,000万円残っているんですけども、つまり、そうしますと、条件変更したと思うんですけども、その過程については、産業参事、おわかりですか。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 お答えします。

これまで3回の条件変更がありました。まず、1回目は平成16年の9月ですが、タスパークホテルの収益状況悪化に伴う中期経営改善計画、5年計画であります。これに基づく対応、そして2回目が平成19年の9月ですが、タスパークホテルの中期経営改善計画書の業績未達による計画修正に基づく対応ということで、1回目、2回目とも償還期間はそのままですが、この期間のうちの前半は1回当たりの償還額を少なくして、そして後半でその分を多く返済していくというふうな条件変更でした。3回目の条件変更が平成22年の12月でありまして、これはタスピルの底地売却によって繰上償還を行うということと、あとタスパークホテルの新中期経営改善計画に基づく対応ということで、これは1回当たりの償還額を少なくして、さらに償還期間を平成37年度まで延長したというふうな条件変更となっております。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 やはり最初から無理だったのが、苦肉の策でこうやってきたということですよ。で、県の制度資金ですから、当然その市も関係しているということで、あとはやはり長井市の経済とかいろんなことを勘案して、県が手を差し伸べてくれた制度資金だと思うんですよ。そうしますと、その条件変更、条件変更、条件変更と、こうなったわけですから、これ何だと、普通この貸し手側から言えばね。

そうすると、県から何か指導とかはなかった

んでしょうか。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 県と、あと銀行、ともにいずれの条件変更の際もタスパークホテルの経営改善計画に記載されました従来の経営努力と今後の計画の妥当性を勘案しての対応であり、双方とも十分協議を重ねた上での手続であったというふうに商工会議所のほうからお聞きしたところでございます。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 22年にそのタスの下の土地を長井市が買う、そういうことを条件のように3回目の変更になったということだと思うんですけども、土地も購入して、土地は幾らで買ったんでしたっけ。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 2億7,800万円で購入しております。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 この長井市で2億7,800万円で土地を購入して、これがまず返済資金にそっくり行ったのだと思いますが、違ったら言ってください。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 県の制度資金の繰上償還に充てたのは1億5,997万1,000円、そのほかに短期の融資などございましたので、そちらに向けたということでございます。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 わかりました。

そして、大分長井市も苦しい中から支援して、2億7,800万円で土地を買って、いろいろ振り分けて返済をしたと。で、今回長井商工会議所融資返済明細書というようなこれ、いただいたんですけど、皆さんいただいでるんですけど、それを見ますと、28年度決算ではその174万円何がし、29年度は157万円、少しずつ減ってきますから、元金がこうなってるんですけど、こ

れによると、平成24年度からその利息に対して補助金を出しているということなんですけども、何かこれ違っているというようなことがありましたんですが、この利子を補助するに至った経過、またいつから異なっているか、お尋ねします。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 この協議会で追加資料としてお出ししました融資返済明細書でございますが、これは長井商工会議所のほうでその借り入れたところに返すための表、一覧表になっておりまして、その際の利息の合計がここに書かれています。

それで、この資金、借入資金に対して市のほうから取得金利の利子助成金をお出ししたのは平成27年度からということになっております。この助成金は、その県の制度資金6億円の融資を受けた資金に係る利子分を支援するというところで27年度から支援しておりますが、この理由としては、およそ4点あるというふうに整理しております。

1つ目が、平成27年度に中心市街地活性化基本計画について国の認定を受け、この施設の機能強化を図るリニューアル事業、これを中活計画の事業の一つとして位置づけているということ。

あと2つ目が、平成27年の1月に長井商工会議所が主体となりまして、経済産業省の支援を受けて調査事業報告書を取りまとめております。これはタス再生整備事業に向けた魅力発掘調査事業というもので、地域コミュニティ施設としてタス機能のあり方、あと持続可能な運営方法を含めた調査ということで、その方向性を出していくというような取りまとめになっております。

そして、3番目として、今後ともこの施設については市民のニーズに対応して、持続可能な施設にしていくため、整備方法を含めた検討を

重ねていく必要があるということ。

あと、4番目が公共、公益性の高い施設であるということから、経営改善に向け、今後とも商工会議所のほうで努力していただきたいというふうに、そういった理由から、この利子に対しても助成をしていくというふうに整理しているところでございます。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 27年度から利子補給をしていると、27年度は193万233円ということで、これが37年までですか、今の計画ですと続くんですね。

それできょう、私、きのう決算終わるかと思ったんですけど、きょうもありましたので、朝散歩に幸町からタスマまでまず行って、タスの周りぐるっと回ってきました。そして、定礎という、ありますね、建物にね、昭和です、62年7月と。少し薄暗かったんで見えなかったんですけど、よく目を凝らして見ると、62年7月。62年夏と、何かうちでもエポックなことがあったなど、我が家で、少し思い浮かばなかったんですけど、息子が生まれた年だと。そういえば息子、30歳だと、タスも30年たったんだなと思いました。ぐるっと見てきました。

それで、4番目は一番大事なことで、市長にお尋ねいたしますけども、一般質問でも申し上げて、長井商工会議所の総務委員会の動きがあって、加藤会頭、総務委員長が大分厳しいタスパークホテルの経営について、厳しい意見というんですか、だんだんと厳しい決断をしなくちゃならないんじゃないかというふうな会議があって、常議員会にお諮りするようなことがあったんですけども、その後、市長は情報をお持ちですか、常議員会か何かの、お尋ねします。

○小関秀一委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

五十嵐委員おっしゃるように、総務委員会の話し合いが行われていたということでございます。

して、これまで4回会議を開催したということでございます。ことしの6月に初会合をなさってから、8月の末まで計4回話し合いをなさって、協議内容につきましては築30年経過した、老朽化してしまった設備改修費用について、またかかる費用の調達方法をどうするかと、3点目はタスパークホテルの経営改善の現状と見通し、また一部の機能変更による収支計画などを話し合われたということを知っておりまして、結論的なところは、回答を専務から、今月になってからお越しになりまして、従来の枠組み、経営努力の範囲内ではタスパークホテルの経営維持が困難で、累積の赤字が出てしまっている。ホテル部分を会議所から、今後どうするか、これらを検討していかなきゃいけないと。新経営体制ですね、そんなことなどのお話ございまして、市のほうでもぜひ全面的に協力してほしいというふうなお話でございました。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 ありがとうございます。

大変厳しい状況がおわかりかと思えます。そこで、やっぱり商工会議所というのは会員の経営指導とか、金融の助言とか、あとはその後継者育成とか、そういったことがまた主力ですよ。あと、商工会議所青年部が頑張っってサッカー大会を誘致して、とにかく今、経済が縮小する中で、何とか地域経済のリーダーとして引っ張っていきたいというのがその商工会議所のあるべき姿で基本だと思います。それに大変申しわけないですけど、その民間企業に言うのは、足かせにタスパークホテルがなっているんだなというふうなことだと思うんですね。

そこで、何とか長井市に支援をお願いしたいということは当然だと思います。それで、2年前から大規模修繕、機械設備などももう30年たってますから、大分時代に合わなくなっているということ、そういったこともあって、

それは私、これも以前、市長とちょっとやりとりしたんですけれども、基本的には約束事があるから、すぐに入るなんていうことはできませんと。当然だと思います。

ただ、半分以上は結局地場産業振興センター、簡単に言えば長井市のものですよね。ですから、本当これまでも直しておかなければならなかったことがあって、それも長井市も大変だったのでできなかったということですから、お互いさまみたいな点もあると思います。

それで、昨日、市長はそのタスビルについて、これから10年間の公共施設の検討には入れてないけれども、やはりタスビルもそういう公共施設の一端だというふうなこと、大変すばらしいお話をされたんですね。

私、少しまた勉強し直しまして、タスビルは62年の建物ですけれども、30年たちましたけど、建築物耐用年数というのをちょっと勉強しました。いろいろあるんですけれども、官公庁用の比較的長い基準、緩い基準で見ますと、鉄筋コンクリートの建物は躯体、建物本体は65年もつんだということです。まだまだ立派なもんですよ。65年もつものが30年しかたっていないので、すばらしい建物ですよ、本体はね。ところが、やっぱり30年たってみて、私ぐるっと回りましたけど、ビアガーデンのところに行ったりしても塗装がはげていたり、もうかなり汚れていたり、あとさびたりしています。で、この建築物耐用年数、いろいろあるんですけど、これも緩い基準で、電気設備で25年、ボイラーは20年、本当は15年という向きもあります。空調設備20年、これ5年ぐらいずつ緩いんですよ、官公庁のやつはね。屋内消火栓30年、消火栓ですよ。あと、屋根の防水30年。

ですから、これから10年なんて待てないような状況だと私、思います。ですから、今回もいい機会というんでしょうかね、で、少しその見直しをしなくてはいけないかななんて思ったん

ですけれども、今、ホテル経営を見直すということがありまして、全面的にその長井市にいろいろ相談に乗っていただきたいというふうなことだと思ってるんですけれども、これについて市長はどのようにお考えでしょうか。

○小関秀一委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ちょっと自分の考えを述べさせていただきますと思います。

まず、私も長井市が、なぜ今このように厳しい状況になったのかということを考えますと、そのとき、そのときで当時の議会なり、あるいは市長を初め当局側が懸命な努力をしてきたんでしょうけれども、やっぱり一つの転機が平成八、九年ぐらいのあたりだったのかなと。まずはマルコン電子が株を譲渡して、なくなると。実質的には平成13年ですけれども、で、平成13年には、今度はハイマンタスパークホテルの母体のハイマン電子、ハイマングループが倒産と同時に進んでいたのが、実は私、大きいなと思っているのは、そこの長井市立総合病院だったんですね。

これ当時、今でもそうなんですけど、486床ですよ。置賜では当然、断トツの1位です。米沢市の市立病院は300床ぐらいしかないわけで、まさに西置賜どころか置賜の拠点病院だったんですね。それがちょっとしたお医者様の関係だと思ってるんですが、あつという間に累積赤字が膨らんで、平成10年ぐらいには、これは長井市立病院はやめますよと。とりあえずはサテライトで残すけど、拠点を違うところに移すということになったわけですね。ですから、平成12年の暮れにオープンしたと思ったんですけども、そこからの凋落はすごいもんですよ。ですから、私はやっぱり長井を支えてきたものづくり産業の象徴マルコン電子、あと地元のハイマンが2つなくなったと。それに長井の総合病院がなくなったことによる長井のこれですよ。

もう一つは、実はタスパークホテルっていうのが大きな、もう一つ支えていたものがあつた

と思ってるんですね。当然、まちなかの商店街ってというのはこの地方のまちも車社会ですから、郊外に拠点は移ったとしても、やっぱり都市機能の最たるものがホテルですから、しかも若者定住促進センターという、3代前の竹田会頭のときに、若い人たちが地方に住んでも、都会並みとは言わなくても、都会に近いような形で楽しめるような機能も必要だと。プールとか、温水プールとか、あとフィットネスとか、あとホテル機能でいろんな会議を呼んできて、長井は交通の便が悪けれども、逆に言えば、しっかりと会議なり、あるいは研修等々受けられる、そういう地域だということを生かしてやってきたんですけども、それを何とか残そうとしたのが横澤浩次会頭であり泰雄、元、お二人、会頭だったんだろうと思ってます。

したがって、長井にこれがなくなったら、本当に長井というのはもう、失礼ですけど、過疎のまちと同じになってしまうと。ですから、これを守ろうとして大変な無理もなされたんだと思うんですね。したがって、平成22年に議会のほうからもご協力いただいて、ご理解いただいて、底地を買わせてもらったのは、一つの行革の一環でもあるわけですよ。何しろ51%を建物で占めてる我々のところが高い地代を払ってると。これは合わない。尺に合わないといえますかね。だから、一方で、会議所側は大変負担で重いと。ですから、そこを一括で私どもが買わせてもらうことによって、後々、私どもも軽くなりますし、商工会議所さんもその部分でちょっと滞っているような融資等々が少し円滑に行くんじゃないかということでご理解いただいて、これを進めてきたわけですね。

したがって、今回、実は会議所さんから来るのが遅かったなと思ってるんですよ。平成26年の夏に経済産業省のいいソフト事業を見つけまして、本来は私ども、したかったんですが、900、1,000万円弱のソフト事業です。それは

我々だと補助対象にならないということで、商工会議所さんをお願いして、先ほど参事も言いましたけれども、タス再生整備事業に向けた魅力発掘調査事業ってやったんですね。これをやる際に、ちょっと私も悪かったなと思うんですが、やっぱり会議所に任せないで、任せっきりじゃなくて、私どもも一緒になっているような団体とか識見ある人に入ってもらって、委員会みたいなのをつくった上で会議所にそれをまずやってもらおうというふうにすればよかったんですが、会議所に任せたわけですね。

ところが、会議所のスタンスは、あんまり積極的じゃなかったと。で、出てきた内容も、私も常々思ってたんですが、商工会議所が1階の一番いいところにあるわけです。何であんなところに商工会議所が必要なんだと。で、私ども、2階の物産館は観光交流センターが出るということで、あそこはあくんですが、できれば私どもとしてはテナントで飲食とか何かを入れたかったんですよ。で、3階はいいとしても、4階をフィットネスの部分はどう改善するか。あと5階はほとんどデッドスペースなんです。ですから、あそこあたりに商工会議所が入って、1階にもっともっというところを入れるでしょう。あと、6、7、8のホテルの部分であったり、宿泊部分であったり、9階ももっという改善しておもしろいことができるんじゃないかと思って、非常に期待して、いい案がいっぱい出たんだそうですが、会議所はそれをして終わりだったんですよ。

幾ら声をかけても、そんなお金ありませんみたいなことで、いや、そうじゃなくて、これは、この事業をやったっていうことは、経済産業省の補助を受けられるっていうことなんだから、やりましょうと。設備なんかも直さなきゃいけないもの、多くかかるってわけですよ、1億円、2億円かかると。それだって補助対象になるじゃないですかと言ったんですが、だめでした。

結局、商工会議所のほうは、ホテルはやらされてるって感覚なんです、今の経営者は。ということだと思います。以上です。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 当初からの経過をお聞きしました。私もそのとおりだと思います。やはりその26年のときに、本当に危機感を持ってこの市長、当局の提案に乗ってれば、まだ違ったかなと思うんですね。やはりその経営形態が商工会議所という人格が、社団がやっているの、これ会社ならこんなことしませんよね。もう今すぐこうやって果敢に動いてってことです。それが結局ずっとこういうことが続いってきたと私、思うんですよ。

ですから、本当は商工会議所会頭が社長なわけですよ、タスパークホテルのね。そういう自分でやったんでないというふうな意識、それは当然その当事者もお気持ちもわかるんですけども、やはり3年間投げてしまって、もうにっちもさっちもいなくなったような気が、私します。ただ、今はこれが現実なわけですから、先ほどタスパークホテルの支援に当たって、継続性というのがあったんですが、継続できなくなりそうな状況にだんだんとなりつつあるということで、本当はもう今からでも頑張っていたら、何とかその収益が上がるように、タスパークホテルの経営にももっと本腰を入れていただきたいと思うんですけども、なかなか今、市長からもあったようなこの状況になっているということですね。

で、もうその電気、空調、ボイラー、いろんなものを本当に直しますと、1億円や2億円ではとても足りないですし、ただ、ちゃんと直せば、例えば商工会議所に約束を守っていただいて、案分を出していただいて、長井市もして、それなりの手当てをすれば、まだまだしっかり使える建物だと思いますよ。

ですから、私この間、その市民文化会館の改

修をちょっと立ちどまって見て、やっぱり市民の方のご意見を聞かなくちゃいけないですよ、まず何よりも。市民の方は、このタスパークホテル、タスビルのその現状などはおわかりになってないと思うんですよ。薄々はわかっている、この現状、その建物の老朽化のぐあいとか、そういうものはやはりしっかりとお示しをして、この公共施設整備のこれからのあり方、先ほどのうそのタスビルも公共施設として捉えていらっしゃるわけですから、ですからこれは、計画、前期5年、10年出しましたけども、やはり状況がまた変わってくるわけですよ。そういったことで、しっかりとその市民にもご説明して、例えば市民会館の改修をやめろというものではないんですけども、そういったことでやはり優先順位をつけていくべきだと思うんですけども、いかがでしょうか。

○小関秀一委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 五十嵐委員おっしゃるのもごもっともなんですが、私としては、長井がなぜ周りの、西置賜ですよ、周りのまちから見て、自分たちのまちよりやっぱりいいなって思ってる人が大部分だと思うんですよ。

ただ、米沢市とか、山形市にはもう比較はできないんですけども、それは何かというと、一つは教育、文化、スポーツ。スポーツの部分は、周りのまちでもやっていますよね。文化もそれなりにいい、ちっちゃい施設ですが、あるんですよ。しかし、長井が一番やはりほかのまちからある意味尊敬されるというのは、やっぱり文化だと思ってるんですよ、文化、芸術。その拠点である文化会館があつた状況ですから、そんなにお金はかけなくても、やはりそういう人たちにもっともっと文化芸術を振興してもらうためにも、文化会館はやっぱり今のものを活用しながら、時代に合ったように少し直していかないと、いかない。

しかし、タスパークホテルは、私よくわかる

んですけども、あれはホテルなんですよ、完全に。ですから、文化施設にはならないです。もう全部裏の裏までわかりますんで、そういった意味からいうと、それを直すと莫大なお金がかかるんですよ。したがって、本当今の現状では、タスもしなきゃいけない、でも文化会館も重要だということで、本当に困りますね。でも、ここは市民によく話すとわかってもらえるはずなんですよね。やっぱり市民の皆さんは、自分どうしても中心に考えますから、文化会館、そんなもの要らないっていう人ももちろんいらっしゃいますよね。タスだって要らないって思う人、いると思います。でも、全体、この先のことを考えてどうだっていうふうに、やっぱりきちっと皆さんと議論しながら、理解してもらえるような努力をすれば道は開けるんじゃないかなと思ってます。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 市長が一番タスのことはわかっていらっしゃる。私でも結構わかるんですね、やっぱりこういういきさつなんかについてはですね。ですから、その8億円のいきさつなどは復習のことでお聞きしたんですね。

それで、先ほど5階はほとんど使っていらっしやらないということで、もったいないスペースだというふうにありました。今、一番利用価値があるというか、はやっているのは、ビジネスホテルですよ。山形駅の西口なんかはもうほとんど予約とれないですよ。やはり日中はお客さんもないわけですから、リネンとかでささっとこうやっていくということですね。あとはもうお客様入れば、自分たちでお風呂入っていく。それがタスパークホテルはやはりホテルですから、もう重厚長大、昔の大戦艦ですよ。24時間人を配置しておかなくちゃいけないし、宿直者が起きていなくちゃいけない。私、5時に行って、戸が両方あくんですよ。いや、これ避難所にいいなと思いましたね。それだけその

大変な経費がかかっているっていうことなんですよね。ですから、もちろん商工会議所のメンバーの方は経済人ですから、そんなことは百もわかってらっしゃると思いますけども、今後いろんなその経営改善の努力をなさって、じゃあ稼働率を上げようとか、もうリニューアルしましょうとかになった場合は、やはりかなり長井市も支援しなくちゃいけないと思うんですが、その点ではいかがでしょうか。

○小関秀一委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今後タスをどういう表現をしたらいいかですが、タスの全体の活性化のための検討委員会を商工会議所と私どもと、地場産センターと、あと当然観光関係、あるいはやっぱり専門家をぜひこの間、商工会議所の会頭にお話ししたのは、全国、全商ですね、全商から推薦をもらったいいコンサルとか……。

(「日商」の声あり)

○内谷重治市長 あ、日商。

(「日本商工会議所」の声あり)

○内谷重治市長 何て言ったんだっけ、私。

(「全商です」の声あり)

○内谷重治市長 あっ、そう。日商ですね、はいはい。日商のほうから推薦をもらった本当に優秀な、いろんな再生をなさったような専門家を推薦してもらおう。あるいは中小機構っていう経済産業省の外郭の団体であったり、山形県も優秀な人材をちゃんと発掘されてると思うんで、そうした人も入ってもらって、今後どうするかを早急に検討すると。それに基づいて、私ども長井市は何をしなきゃいけないか、それは議会の皆様とも相談しながら、必要であれば厳しいでしょうけども、建設、改修のお手伝いもしていかないとだめだろうなというふうに思いますし、何よりも地場産業振興センターそのものも、今後どういうふうにして将来の経営、あその部分だけじゃなくて、いろんなところの観光交流センターも含めて考えていかなきゃいけない

と思っておりますので、まずはその検討会で協議していくことだと思っております。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 ピンチをチャンスにするように、何とか議会も知恵を絞っているいろいろなやっていきたいなというふうに思います。

ただ、今後のまだ残債が1億5,000万円もありますので、やはりその辺の責任の所在を明確にさせていただいて、会議所でも努力していただくという方向で行っていただきたいというふうに思います。

では、次に、介護人材育成事業についてお尋ねします。1番と2番は厚生参事にお伺いしたいと思います。

一昨日、幸町で敬老会がございました。今各地でなさってる、市長もお呼ばれしたりしてると思うんですけども、私どもの幸町には103歳の女性の方がいらっしゃいまして、今、日本には6万5,000人以上ですか、100歳の方がいらっしゃると、満でね。ただ、その100歳を過ぎてかくしゃくとしている方はなかなかそうはいらっしゃらないと思うんですね。幸町の103歳の方はもう敬老会にすたすたと歩いてこられて、ちゃんと自分で座って、乾杯のときは立って、お食事を自分の箸でばくばくと、芋煮を一つ、お酒もたしなまれて、いや、すばらしいなと思いました。握手をしてきました、私も元気ももらった思いです。

そういうふうな方も、やはり高齢化社会になりましたので、それを支えるシステムがあつてこそですね、安心してご高齢者の方も過ごせると、明るいまちになるんだということで、常々申し上げておりまして、私その介護職がなかなか集まらない、3Kだなんて言われて、この地場産業の優秀な仕事ですよ。先ほどそのマルコンとかハイマン電子がなくなって、それをかわって慈光園さんとか長井弘徳会さんとか、そういう今の若い女性の職場として経済を支えて

きたということですけども、今、雇用情勢も変わっておりますので、なかなかいらっしゃらなくなったということで、何とか支援すべきじゃないかということで、私の助言も少し参考にされて、この制度をつくられたと思います。

それで、28年度の決算では、介護人材育成支援事業148万4,780円、そのうちで奨励金、介護職員就職奨励金37万円、初任者研修支援事業費補助金24万1,970円とあるんですけども、厚生参事にお伺いしますが、その人数、幾らで、その奨励金を受けられた方の感想とか、いかがだったかと、あと初任者研修受講して終わられた方の進路はどうなったんでしょうか、お願いします。

○小関秀一委員長 松木幸嗣厚生参事。

○松木幸嗣厚生参事 おはようございます。私のほうからお答え申し上げます。

平成28年度の就職奨励支援事業、こちらのほうのまず人数であります、男4名、女4名の合計8名でいらっしゃいます。こちらについては8月から11月の間に奨励金の支給決定ということで事務を進めたところであります。

また、初任者研修支援事業、こちらのほうにつきましては、申し込みが14名ほどありました。しかし、そのうち2名が辞退なさいまして、12名が受講ということで、今回の補助金は長井市民に限ってということでございますので、人数的には男2名、女子4名ということで、研修時期につきましては9月から3月までの間に期間的には行っております。それで、奨励金を受給した方の感想であります、こちらについては特段ちょっと聞いておりません、支給の事務が進めた関係で、感想まで聞かなかつたので、今後お聞きしてみたいなというふうに思っております。

また、初任者研修補助金受給者からについてはですが、受給者全員へのアンケートを行っておりまして、研修については、研修受講料、時

間、内容について適切であったと、全員からのお答えをいただいております。

また、補助金制度についてですが、この制度がなかったら、この時期に受講することは考えられなかったということで、受講する気持ちになったという感想を数人の方からいただいたところであります。

なお、今回徐々に周知が図られたという結果だと思いますが、昨年14名申し込みだったのですが、ことしは既に20名という形になっております。

初任者研修を受けた方の進路についてですが、補助金対象者の進路については、6名のうち4名は介護施設のほうに勤務なさっています。1名の方は障害者施設であります。1名の方は高校生でありまして、介護施設への就職を希望しているというような今の状況であります。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 やはり少しずつですけども、その効果が出ているというふうなことだと思います。やはり介護職は念頭になかった方も、こういう制度があることによって、はっきり言って無料だから受けてみよう、そしてきちっと学ぶと、その介護職につかれたということで、大変いい事業なので、継続して行っていただきたいなと思います。

私、常々その人口減少をストップするには地場産業に若い人が就職してくれる。なおかつそのイメージアップだと。建設業なんかは今、非常にそのなり手がいらっしやらないんですが、職人不足ということがあるから、定年もない仕事で、若くして起業すればチャンスもありますよと。介護職だって正職員で40年、45年と勤められますよと、そういうことを情報発信しましょうということを言ってきたんですね。

私、常にどこに行ってもこういうことを話すもんですから、熱くですね、そうすると、話を聞きつけて、実はご夫婦で私の家に相談に見え

た方がいらっしやる。その方は、奥さんが医療事務で、病院で働いていらっしやる。医療事務がすごく、なかなか難しい資格なんですけども、実態は契約社員っていうんですかね、余り数字なんか申し上げるの大変なんですけども、すごく年収も低いんだということでした。200万円など到底及ばないということで、その方のおっしゃるには、ちょうど平成五、六年あたりに就職したんだけど、ちょうどバブル崩壊後で景気が悪くて正職員の採用がまずなかったんだと。だからこういうところ、正職員を探したんだけど、派遣になったというふうなことでした。

もう20年ぐらい勤めていらっしやるということで、子育てちょうど子供さんの進学に当たっているというようなことで、こういう制度がある、正職員になれるというふうなことも聞いてきたということで、いろいろお話ししました。大体、まず資格取得の道もあるよと。そして、二、三年頑張ると、全然違ってくる。それで、契約社員ですと、例えば65歳まではちょっと無理だろうけど、ここでは定年、65歳まで働ける。そうすると生涯賃金とか、生涯年金とかが全然違ってくるんだというふうなことで、参考にされたと思うんですけども。

で、イメージを聞きました。介護のイメージどうですか。そうすると、8時間働くうちに5時間も6時間もおむつ交換をしたり、お風呂に入れたり、体を拭いたりするんですかっていうふうなことを、食事介助とか。決してそんなに長くありませんし、今チームでやっていますから、そういうことはもちろんありますけど、大変な仕事ですけども、高齢者と触れ合う場面とか、お出かけをしたり、そういったレクリエーションをしたりというふうなこともありますよというふうに申し上げたら、ああ、そうですかと。でも、実際に見学すればいいんじゃないですかというふうに申し上げました。やはり実際その一般の方の受けとめ方は、介護といえはそうい

うふうな感じなんですよ。ですから、もちろん仕事に楽なものはありませんけども、そういったこのイメージも払拭していただきたいなというふうに思うんですね。

市長にお尋ねしますが、やはり実際にそういった面があって、そういった方が正職員になって、その介護をやってみようかと頑張ると、当然年収も上がりますから、そして所得も上がる、市民税も上がる、消費もすると。もし若い人でしたら結婚、出産ということにもなると、これも何回も申し上げてきたんですけど、こういったことを具体的に取る必要があるのではないかと。まず進路指導、高校生にアンケートとりますと、地元に戻ってきたいと、高校卒で地元就職したいという方も結構いらっしゃるんですよ。で、短大、大学に行って、戻ってきたいと、地元、そういった方もいらっしゃるんですけども、やっぱり仕事がないとそれは果たせないわけですよ。ですから、こういうことを教育委員会等と話をされて進路指導に、もしかしたら今現在、働いている方なんかを出前させていただいて、本当にきちっと伝えるようなご努力をすべきだと思うんですけども、いかがでしょうか。

○小関秀一委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 五十嵐委員おっしゃるように、そういった介護福祉関係の施設で働いていらっしゃる女性の方なんかの表情を見てますと、生き生きと、しかも若い女性も結構いらっしゃるんですよ。ある施設でお聞きしましたら、うち全体で今、育休とってるのが14人いる。すごいなというふうに思いましたね。やっぱりそれだけ女性が支えてるし、若い人たちも決して嫌がらずに、むしろ生きがいを持ってずっと働き続けたいという意思がちゃんとあって、そういう法人側もそれに応えられるような体制をとってるなと思ってます。

そういった意味では、五十嵐委員おっしゃる

ように、とにかく中高生とか、ちょっとイメージ的にほんの一握りですよ、ほんの一握りっていうか、全国に何千何万とあるうちの1つ、2つが、例えば何か事件を起こすと、ああ、やっぱり介護って大変だなというふうについつい思われてしまう。こういったところを払拭するためにも実態を、子供たちに教えなきゃいけないと思ってます。そういった意味では、中学、高校生の進路指導時の情報提供、これをきちっと先生方にも理解してもらわないと、誤った情報を伝えてしまう可能性がある。あとはハローワークと連携をしっかりとしなきゃいけないと。非正規雇用で正職員採用の仕事を希望する方への支援等々を厚くしなきゃいけないと考えているところでございます。

○小関秀一委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 ありがとうございます。

○小関秀一委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これから細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いをいたします。

認第1号 平成28年度長井市歳入歳出決算認定についての質疑

○小関秀一委員長 それでは、認第1号 平成28年度長井市歳入歳出決算認定についての一般会計の歳入から順次質疑を行います。

まず、認第1号の一般会計の歳入全部について質疑を行います。事項別明細書74ページから121ページまでであります。ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○小関秀一委員長 質疑もないので、質疑を終結